



2年は学年直通番号の
末尾が「2」です!

◆頼られて成長しよう!

2・3年生からのアドバイスに頼りながら過ごしてきた1年生を終え、頼られる場面が増えていく2年生としての学校生活が始まります。1年生に頼られながら、頼られるに足る自分であるべく、自らを高めていきましょう。

◆4/11(火)スタディサポートについて

1年生の学習内容の定着度合いを測定する機会です。測定の精度を高めるためには、相応の準備(=勉強)を要します。今後の自らの基礎固めの目安にもなるので、しっかり取り組んでください。『スタサポ活用BOOK』提出です。

スタ ディ サ ポ ー ト 時 程	8:20~8:35	SHR
	8:35~9:55	国語(80分)
	10:15~11:45	英語(90分)
	11:45~12:30	昼休み
	12:30~13:50	数学(80分)
	14:00~15:10	学習状況リサーチ 自己採点 他

◆◆◆ 担任紹介 ◆◆◆

担任の先生に、自己紹介を兼ねて、学生時代のご自身の研究や専攻について書いてもらいました。(ブログ用に教員名は割愛しています)

【1組担任】(国語)

日本史学を専攻、特に中世期の神祇祭祀体制の研究をしていました。古代国家と神社の関係が地域性を帯びつついかに変容したか…と文献史料や膨大な先行研究を読み解きながら、一つの見解にまとめました(約20年前)。人間が書いたもの、作ったものに魅かれ、一生かけても出会いきれない先人の足跡を、今でも一生かけて見聞きしているところです。取得した国語と情報の教員免許で仕事をしています。なんでもできる文学部は、こんなふうに興味の幅が広い人にうってつけですよ。

【2組担任】(国語)

哲学科専攻。ただし、哲学そのものの研究より、カール・ロジャーズが提唱した「来談者中心療法」に興味を持って、カウンセリングの勉強をしました。また矯正教育にも関心がわき、法を犯してしまった人の社会復帰の為に、少年院や刑務所で働く刑務官の方から話を聞いたり、保護観察になった少年たちと一緒に過ごすボランティアをしたりしました。卒論のテーマは「人間関係論」。難しいけれど、人との関わりだけは避けて通れませんから。

【3組担任】(英語)

大学では文学部言語文化学科で、英語がほかの言語と比べてどのような特徴があるのかをサウンドシンボリズムという手法を用いて調べていました。主に卑語(F word)について調べていたので人間の汚い部分を多く知れて超楽しかったです。気になる人は僕の名前でググると卒論がでてくるので見てみてください。

【4組担任】(数学)

昨年度担任や授業担当の諸君ご存じであるかと思うが、そもそも小学校教員をめざす課程に所属していたので、義務教育における教育の在り方(教育学)について学びつつ、数学専攻でその中でも代数学を専門に学んでいました。理学部の数学科からすると教育学部の数学の内容は平易ですが、ひとまず5次以上の高次方程式には解の公式がないということを一般的には代数学では学びました。(これをガロア理論といいます。)

【5組担任】(保健体育)

体育系の大学でスポーツマネジメントを専攻していました。観客動員の動向(性別・年齢・

なぜ応援に来たか?など)、Jリーグにおける関西のチーム(ガンバ大阪・セレッソ大阪・ヴィッセル神戸・京都サンガ)のスポンサー、どのようになれば認知してもらえるか・その費用対効果など。Jリーグのユニフォームを見てもらえれば、企業の名前が入ったユニフォームを着用しています。それはスポンサーが関係しています。このようにサッカーを含むスポーツには多くのスポンサーが関わりチームや選手が活躍しています。面白い分野なのでスポーツ好きな人にはこのような関わり方もあると知ってもらえればと思います。

【6組担任】(数学)

学際的で様々な分野を専門にしている学生がいる中で、数学の解析学を専門に学んでいました。1回生の時には数学以外にも心理学や物理学など様々な授業を履修しました。2回生で数理学、社会科学、自然科学、生活科学などのコースから自分の専門にするコースを選ぶ(入試の時に理系で受験したか文系で受験したかは全く関係ない)という学部でした。大学に入って自分の視野が広がってから何を深く学ぶかということを考えることができるのは大きな魅力であったと感じています。何を学びたいかという視点はとても大切であると思います。

【7組担任】(家庭)

生活科学系の大学で、家族関係学や家庭経済学を学びました。消費経済や消費者行動論を専攻し、バブル経済が弾けた後の消費行動について研究しました。この分野については農学部の農業経済でも学ぶことができます。家庭経済学は設置しているところが少ないので友人の紹介をします。被服系の友人は着ごち(被服圧と人体)について被験者を募集して実験し、データをとり研究していました。住居系の友人はインドの住居の研究で、実際に現地に行き、調査していました。いろいろな切り口で学べる学部なので興味をもってもらえると嬉しいです。

【8組担任】(英語)

私が最初に進学したのは実は経済学部です。経済学部は数学が必要と言われますが、求められるのは、基本的な経済理論を理解するために必要な特定のグラフや式の意味を理解する能力です。数学自体の勉強をするわけではありません。また3回生以降は、経済の理論、歴史、実践などのコースに分かれ、興味のある分野を勉強します。私は経済歴史コースに進みました。昔の経済学者が社会活動をどのように解釈したかなど、現在の実生活に直結する部分も多いです。交通経済では渋滞のメカニズムや、渋滞が経済に及ぼす影響なども学び面白かったですよ。

【9組担任】(化学)

理学部化学科で物理化学を専攻していました。実は私は、高校時代は文系でした。今とは教育課程が違って、理系科目を履修してなくても受験できる理系の学部もあったため入学できました。ただ、1年生の前期で、高校で習ってこなかった物理と数学の2科目の単位を落としましたが…。

理学部は、それを勉強して何の役に立つの?と聞かれると、答えにくい内容のものが多いです。そして私もそうだったのですが学生の半数以上は大学院へ進み、海外での国際学会へ参加も普通でした。探究Ⅱ理科スタンダードで楽しさを感じた人にはお勧めかも。

【学年主任】(日本史)

考古学が専攻で、心合寺山古墳(八尾市)を軸に、中河内の前・中期古墳について調べていました。榎原考古学研究所の資料室などで発掘調査の報告書にあたったり、心合寺山古墳と同様の副葬品を持つ南山城の古墳について調べたり。一番楽しかったのは、見る目を養うために、京阪奈の発掘現場の説明会へとにかく足を運んだこと。大学在学中に見に行った発掘現場は100件以上。フィールドワークは今でも続いています。こうした研究は、主に文学部史学科で取り組むことができます。

◆自分の“知っている範囲”を広げよう

2022年度を振り返り、高校生活1年目はどうでしたか？入学時に描いていたイメージ通りのことを経験できたり、イメージ以上の環境・出来事に戸惑いながらも高揚感を覚えたり、中にはイメージしていたものとはネガティブな意味で異なるものもあつたり——と、様々なものが混在していると思います。そのなかで、今回意識してほしいのは“イメージ以上のもの”です。

中学生期の自分が知っている・イメージできる範囲以上のものに触れた経験は、1年生で数多くあつたと思います。例えば人との関わり。中学生期にはほとんど使ったことがない鉄道路線を日常的に使うようになったり、今まで関わりがほとんどなかった地域の同級生と親しくなったり。近鉄南大阪線を利用する人、南海線を利用する人、JR阪和線を利用する人、大阪環状線を利用する人……。中学生期まで自分の周囲にそういった同世代の人がほとんどいなかった環境から一歩進み、上記路線の沿線に暮らす同級生と同じ学校・同じ教室・同じ部活で交わり合うようになったと思います。それによって、自分の行動範囲が大きく広がったのではないのでしょうか。学校生活だけではありません。遊びに行く、買い物に行く範囲も含めて、きっと拡大したはずです。行動範囲の拡大は、自分にとっての選択肢の拡大を意味します。今まで行かなかったような駅・街が、自分にとって新たな定番スポットになった経験に、覚えはありませんか？

例示したように、自分の関わる範囲の拡大は、自分の行動範囲や自分の選択肢の拡大につながります。もちろん、これは全てにおいて同様で、(広義の)勉強にも言えることです。自分が持つものを豊かにするには、自分のイメージ出来る範囲の外側に積極的に身を乗り出し、自分の知っている範囲を広げていくことが不可欠です。視野を広げる、知っている範囲を広げることは、自分の考えが及ぶ範囲が広がることであり、自分にとって候補に挙げられる選択肢が増えていくことにつながります。

自分の取り得る選択肢を、しっかり・誠実に吟味し、最善を選び取ろうと努める姿勢が強く、またそれに向けてしっかり努力を注ぐことが出来る——これは、近年の生野高校の生徒によく見られる傾向として私(高崎)が感じていることです。ところが一つ落とし穴があつて、一方で生野生は、“自分の取り得る選択肢”に留まりがちなのです。粗い言い方をすれば、「自分の知っている範囲だけで考える傾向」「知っている範囲から当たりクジを引こうとする傾向」が強く、「知らない(イメージ出来ない)ものに手を出したがる」ということです。

上述したような姿勢や力を持っていながら、知らないものに手を出さない気質や雰囲気は、本当に勿体ない。知っている範囲だけで考えないでほしい。知っている範囲はまだまだ限られており、その限られた範囲から当たりクジを探すような行動はしないでほしい。探り当てたそのクジは、限られた範囲内で見れば当たりのように思えたとしても、その一歩外側の視点から見れば決して当たりではないかも知れない。そのクジは万人ウケする当たりかも知れないけど、自分がいま知っている範囲の一歩外側には、自分の好みにもっと核心的にコミットするクジがあるかも知れない。大当たりのクジがあるかも知れない——そして、その可能性は非常に高いのです。

知らない範囲・イメージ出来ないものに手を出したがる傾向は、分からなくはありません。不確実な選択肢よりも、確実にイメージ出来る“当たり”を手に入れたい——それが中・小粒の当たりであつたとしても。高望みはせず、いわゆる“安牌”を切りたい——消費性向はそれでいいのかも知れません。しかし、人の一生は消費物ではありません。自分という器に何を盛り込むかは、高望みしていいのです。仮に結果として望んだものが盛り込めなかったとしても、それを盛り込むことが出来た人と繋がりを持てたり、望むに値するものが存在することを知っている自分になれる——そのこと自体が、望んだ成果として自分の中に残るのです。オリ

ンピックで、メダリストだけに価値があり、表彰台に上がれなかった人には頑張った意味はないのか——そうではありません。メダルを得られなくとも、入賞出来ず記録に残らなくとも、それを望んで努めた自分と、そうでなかった自分とでは、きっと得たものは前者に軍配が上がるはずです。求めて手を伸ばさなければ、求める感覚も手を伸ばさず感覚も分からない。メダリストと同じトラック、同じフィールドに立った経験は、それを求めた自分にしか得られない。結果としてメダルに届かなくとも、そうした感覚や経験そのものが自分の財産として残ります。メダルが得られなければ（得る可能性が低ければ）オリンピックに出る意味はない——“コスパ意識”を働かせれば、そういう結論に辿り着きます。しかし、人の生き方は消費ではない。“コスパ意識”が有意に働く場面もありますが、一方で妨げとなる場面もたくさんあります。

「何それ、知らん」

→「やめておこう、知っている方にしておこう。イメージ出来る方にしておこう」

いつも新境地に挑戦——それは確かにしんどいし、イメージ通りをなぞる楽しさも否定しません。しかし、それ一辺倒では勿体ない。知っている・イメージ出来る範囲とは、結局は従来の生野生の範囲内に留まる自分たち、ということに他なりません。

「何それ、知らん」

→「じゃあ、それにしてみよう」「一度試してみよう」「行ってみよう」

本を読むことは、自分の知っている範囲を拡大する最適手段の一つですが、知っている範囲を広げるのは勉強に限った話ではありません。遠足でどこに行くのか、体育祭のTシャツデザインや応援合戦をどうするのか、文化祭で何を企画するのか。そして、3年に向けて自分の進路をどう考えるのか。

“先輩以内の生野生”に留まらない、フィールドを拡大し続ける 77 期の2年生を楽しみにしています。

◆感染症対策について

4/10(月)に説明があった通り、マスク着用が個人の判断に委ねられる形になりました。一方で、これは人間の側のとらえ方が変わったことによるものであり、新型コロナウイルス（COVID-19）そのものが 2023 年3月までのものから大きく変わった訳ではありません。したがって、手洗い・うがいといった（コロナに限らず）基本的な感染対策はこれからも続けてください。

また、健康面の事情は人によって大きく異なります。自身の健康に不安要素があったり、一緒に暮らしている家族などに基礎疾患があったり療養中であったり…と、感染症に対する心配の度合いは本当に人それぞれです。生野高校には生徒・教職員を含めて 1000 人以上が在籍している訳ですから、その1割がそうした事情を抱えた人であると仮定すれば、校内だけで 100 人以上にのぼります。自らが、そうした環境下でも活動しているということを慮った振る舞いができる人であってほしいと思います。

*詳しい資料が、3/31(金)に高田教頭から Google Classroom 「77 期 保護者」のクラスで配信されています。

◆当面の予定

4/11(火) スタディサポート

*この日から昼食を準備してください

*進路ファイル持参

12(水) 1 限対面式+授業4 コマ

13(木) 授業4 コマ+LHR

14(金) 授業4 コマ+LHR (学年集会)

15(土) オーストラリア語学研修説明会

20(木) 午前中授業+午後：定期健康診断

21(金) 語学研修参加申込み〆切